

## 文化・芸術

### 「暁の菊」

1955、65年ごろ、紙本彩色  
58・3センチ×15・5センチ

安田鞞彦 (1884～1978年)

安田鞞彦は東京の料亭の家に生まれ、13歳で画家を志します。大和絵を学び、同門の仲間と研究グループ「紫紅会」を結成、今村紫紅らも参加して「紅児会」と改めた同会には、のちに速水御舟も参加します。

岡倉天心亡きあと1914年には日本美術院の再興に参加し、以後院展を中心に活動。大和絵を基礎としながら、澄んだ色彩、洗練された線描による力強さと繊細さを併せ持つ格調高い歴史画の様式を完成させました。鞞彦の芸術は御舟により「馥郁（ふくいく）たる匂ひ」と評されましたが、それは作品において品格を第一と考えた鞞彦の画面に一貫する特色を言い表していたといえるでしょう。

花と古陶をとりあわせた静物画も描いた鞞彦。本作は染め付けのすっきりとした淡い青の階調と菊の深みのある赤と緑を対比させています。

本作は「秋の彩り―日本画コレクション」で10月8日から展示いたします。  
(大倉)



《名画の扉》 大川美術館日本画コレクションから